

学部長・研究科長・法科大学院長からのメッセージ



経済学部長 室井義雄

皆さん、ご入学おめでとう。十六世紀末に中国で編纂された『算法統宗』によると、数の位取りは、一、十、百、千に始まり、最後は不可思議となっている。その大きさは10の120乗で、無限大に近い。「大学」という空間もまた、皆さんの無限に近い可能性を開花しようという意味において、「摩訶不思議」な世界です。「University」の含意でもある「宇宙・普遍・博識・自在」を意識しながら、自由に学び、また「自分探し」の旅に出てください。

そして、経済の語源である「経世済民」(世の中を治め民を救う)を忘れずに、大空を飛び交う「鳥の眼」と、地上を這う「虫の眼」を併せもつ国際人として、大きく成長されるよう期待しています。



法学部長 木幡文徳

入学おめでとう。やや辛口で恐縮ですが、大学は、諸君の精神・身体に何かを覚えこませ、諸君を何者かに仕立て上げようとする場所ではなく、諸君自身が何者かになることを志した時に、諸君の目的達成のために人的・物的支援をする場所であることを理解してほしいのです。その為に、大学は、完全とはいえないまでも、かなりの程度の人材と設備を用意して、諸君に利用されることを待ち望んでいるというわけです。あたかも、専修大学という場が自分にとっての場ではないかのごとき不満をもらされる方がいるやに聞きますが、そのような人こそ自己の要望を大学に求めてみてください。大学はきっと答えてくれるはずです。諸君の大学生活が、活力に満ちたものであることを祈ります。



経営学部長 魚田勝臣

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。経営学部の教職員、在学の先輩一同は皆さんを心から歓迎します。経営学部は創部44年の輝かしい歴史を持つ学部です。そんな学部で学ぶことに自信と誇りを持ってください。

皆さんは一日も早く大学での友人を作ってください。教職員も応援します。経営学部には「オフィスアワー」があって先生方に何でも相談できます。そして、これまでの教えられ育まれる習性を抜け出し、自ら学び考える態度に転換してください。自立し、自発的・自主的に行動できるようになれば、経営学部には知的好奇心をそそり満足させるスタッフとハード・ソフトが揃っています。それぞれが夢を持ちその実現のためにともに勉強しましょう。



商学部長 川村晃正

新入生の皆さん、入学おめでとう。君たちの心を一日も早く高校ヴァージョンから大学ヴァージョンに切りかえてください。そのポイントは、主体的に物事に立ち向かうということです。これからの大学生活において、講義やゼミナールでは先生との「出会い」、教室やサークルでは友達との「出会い」などさまざまな「出会い」が君たちを待っています。それらの「出会い」においては、自らが考え、自らが判断し、自らが行動し、そしてそれによって生じた結果に対して自らが責任を持つことが大切です。自分に軸足を置きつつ、それぞれの「出会い」を通して君たちが一回り大きな器の人間に成長していくことを期待しています。これからの4年間の歩みを実り豊かなものにしてください。



文学部長 荒木敏夫

入学おめでとうございます。これからの4年間の大学生活は、皆さん方がこれまで経験してきた学生生活と大きく相違します。総てが新しい経験であり、それらは新鮮なはずです。新入生の最大の魅力は、初々しい感性であり、自分の可能性を試してみるチャレンジ精神です。

大学での4年間を悔いなく送るには、入学に際して、何のために大学に進学したのか一度熟考してみてください。

4月・5月と学生生活を送るうちに、流されている自分に気づくこともあるでしょう。また、期待が思うように実現できそうもなく落ち込むこともあるかもしれません。そんな時、必ずあなた方の話を聞いてくれる教員・職員が身近にいます。専修大学はそんな大学です。挫けること、悩むことを恐れず、自分の可能性をこの大学で試してみてください。



ネットワーク情報学部長 齋藤雄志

大学での勉強は何のためにあるのだろうか。一部には大学の勉強が役に立たなかったという人もいます。逆に学んだことがことごとく役に立ったという人もいます。たしかに職業の選択や運命によって整合や不整合はいろいろに起こりうる。私は大学での勉強の役割は、知識の習得も重要であるが、専門分野向きの思考回路の形成にあると考えている。高校までは、社会人として生きていくための常識的知識を断片的かつ強制的に頭に放り込んだだけだ。専門分野で本格的な思考を展開することができ、組織や社会のために新しい価値を作ることができるような「脳の基盤整備」が大学の役目である。この面では多くの皆さんは発展途上にある。大学時代を無目的に過ごすと、それが形成されない。



経済学研究科長 矢吹満男

経済学研究科は本年度修士課程34人、博士課程4人の新大学院生を迎えました。研究者を目指す人、資格を目指す人、専門性を身につけて就職しようとする人、主婦の方、そして留学生と多様な皆さんの入学を心から歓迎いたします。

本研究科は新進気鋭の若手教員からベテランの教員まで幅広い専任教員が授業を担当し、官庁等で実務経験の豊かな客員教員も多数授業を展開しているのが特徴です。計画的に受講して視野を広げると共に、修士論文や博士論文の作成をとおして分析力を磨き、学問の深さを実感してください。皆さんの入学の目的は多様ですが、院生間で大いに切磋琢磨され、それぞれの所期の目的を達成されるよう願っています。



法学研究科長 高木侃

皆さんはそれぞれの研究目標にむかって研鑽し、最終的には論文を提出して、学位を取得します。資料収集に始まる論文作法は、指導教授等に仕込んでもらうことになりましょう。

私事ですが、かつて拙著『三くだり半』(平凡社選書)の原稿をほぼ書き終わる最終章にいたったとき、一日に四百字で二十枚、八千字を書いたことがありました。自分で書いているという意識はなく、研究の神様が智慧の文殊菩薩が私の肩に乗って書かせてくれているという感じでした。一日だけの経験ですが、もう一度くらい味わってみたいと思います。皆さんも「ゆっくり、休まず、ときに集中して」研究に精励され、このような至福の刻がおとずれることを期待いたします。



文学研究科長 鈴木丹士郎

本年度文学研究科では全体で52人の方々が修士課程に入学され、また9人の方々が(英語英米文学専攻2人、歴史学専攻3人、社会学専攻1人、心理学専攻3人)が博士後期課程に入学されました。皆さんは本研究科をめざそうとした時からすでに何を研究するか、はっきりした目標を持っていたと思いますが、本日からその青写真を点検確認し、もしも迷いがあつたら、すぐに先生方の指導をおおぎ修正してください。他の大学院に

少しも引けをとらない豊富な教授陣が必ずや疑問に答えてくれます。ひたむきに研究に取り組もうとする諸君には先生方は一臂の労を惜しまないのです。それぞれの課程において目標達成に向けて邁進してください。



経営学研究科長 竹村憲郎

晴れて大学院に入学された皆様に心からお祝い申し上げます。しかし、厳しい受験競争を勝ち抜いた学部の入学とは異なり、大学院への入学は、「目出度さも中くらいなり」というところでしょうか。皆さんは、企業、その他の職場で働く代わりに、「学問」という果てし無い未開の荒野に挑む厳しい道を選択したのです。

そうした皆さんへ歓迎の印として「致力専攻」という言葉を贈ります。この言葉は、皆さんの学生手帳の表紙に書いてあり、その意味は表紙裏に解説されています。「致力専攻」の気概を持って実りある院生生活を送られることを大いに期待しております。



商学研究科長 小口登良

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。大学院は研究で勝負するところです。アカデミックコースは言うまでもなく、高度専門職業人を目指すビジネスコースでも、自分で考え、教員と、友人と、文献と議論し、さらに考えを深めていくことが大切です。それと同時に先人が築いてきた理論や方法を理解し、自分の考えを築きながらも独りよがりにならない柔軟性も心がけてください。すべきことはたくさんあり大変ですが、将来どんな道を進むにしても、ここで集中的に勉強したことは、その内容はもちろん、その経験も大きな糧になることは間違いないものと思います。思いっきり勉強してください。教授陣もそれを受け止めるべく待っています。



法科大学院長 平井宜雄

法科大学院に入学された皆さん、心からお祝いを申し上げます。言うまでもなく、法科大学院は、法曹養成に特化した、これまでに例のない大学院です。したがって、それぞれが多様な経歴を持っていても、皆さんが共通に目指すところは、法律家になることでしょう。古来から、法律家は、医師と並ぶ専門的職業の代表でした。それだけに、法律家として活躍するには、長期にわたる厳しい訓練と絶え間のない知識の習得とが要求されます。法科大学院での勉強は、そのような過程の第一歩にすぎません。そのことをよく自覚して、勉学に励んでくださることを、強く期待しています。